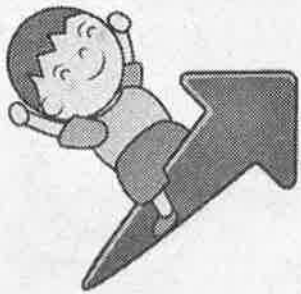




楽しむ努力をするからこそ楽しい

校長 徳留 勇



「5年生の愛川体験学習」「6年生の日光修学旅行」「4年生の上郷体験学習」大きな行事を3つ終えることができました。コロナ禍の影響で2年間実施することができなかった宿泊行事。「子どもたちのために、今年は何としても実施する。」という強い決意をもち、感染症対策と万が一への備えをできる限りして実施いたしました。残念ながら、感染症の影響を全く受けないというわけにはいきませんでした。何とか無事に終えることができました。家族と離れて、友達と共に過ごした二日間。子どもたちにとってはかけがえのない経験となったように思います。一回り大きく成長し、仲間との絆を深めた子どもたちが、これからどのように活躍をしていくのか楽しみです。

4年生の出発式で、「楽しい体験学習になるか、ものすごく楽しい体験学習になるかは自分次第。どんなに価値があり、楽しい活動も自分が興味をもって楽しもうとしなければ、その価値を味わうことはできません。だからこそ、皆さん一人ひとりが楽しむための努力をしてください。」という話をしました。

学校生活において、同じ学習や活動をして、「楽しい」と笑顔になる子どもと「つまらない」と浮かない顔をする子どもがいます。つまらない理由はいろいろあるかもしれませんが、往々にして、自ら働きかけるでもなく、ただその場にいるだけで、先生や友達に楽しませてもらえなかったと受け身になってしまっていることが多いように感じます。

日常生活においては、かつてのように自分たちでルールを作り、仲間と一緒に能動的に遊びをつくる機会が減り、ゲーム SNS、テレビ、スマートフォンなど、楽しい刺激を与えてくれるものによって、受動的に楽しみを与えられることが当たり前になっているのかもしれません。

しかしながら、学校生活においては、子どもたち自身に主体的に楽しむ気持ちがなければ、どんなに素晴らしい活動が計画されていたとしても楽しくはなりません。逆に、どんな活動であっても自分で楽しむことができれば充実したものになるはずで

楽しいと感じるには、前向きに頑張ったとき、気持ちが通じ合ったとき、達成感を味わったとき、感謝されたときなど様々な要因があります。いずれにしても、多少の努力の上に成り立っているように感じます。だからこそ、「楽しむ努力をするからこそ楽しい」のだということを子どもたちに伝えたいと思うのです。

「与えられた楽しい人生をただ送るのではなく、どんな状況であれ、自分で切り開いて人生を楽しむ」そんな子どもたちに育ってほしいと心から願っています。